

### 5-3 津波早期警戒システム構築のためのアセスメント調査団 (UNESCO/IOC 主催)

国連教育科学文化機関政府間海洋学委員会 (UNESCO/IOC) は、2005年4月にインド洋津波早期警戒メカニズムの構築に関する UNESCO/IOC 第2回国際調整会合をモーリシャスで開催、モーリシャス宣言が採択されました。同宣言には、環インド洋諸国が、効果的な津波早期警戒システムを構築するにあたっての現状と課題を国ごとに明らかにするためのアセスメント調査を、必要に応じて UNESCO/IOC の支援を受けながら実施していくことが盛り込まれました。

これを受けて、UNESCO/IOC は、環インド洋諸国の16カ国にアセスメント調査団を派遣しました。

アジア防災センター (ADRC) も、国連国際防災戦略 (ISDR) 事務局、世界気象機関 (WMO) と共に、関係機関の専門家5名で構成される調査団に参加し、日本の津波防災システムの概要を紹介するとともに、受入国政府側と当該国の津波早期警戒システムの現状に関して、議論しました。調査は、津波早期警戒システム構築のための課題を明確にするため、次のような様々な分野にわたっています。

- (1) 担当部局と省庁間の調整、
- (2) 津波早期警戒とモニタリング、
- (3) 津波早期警戒と緊急対応、
- (4) 津波ハザードとリスク、
- (5) 住民への啓発とコミュニティレベルの防災

全16カ国への調査団派遣のうち、アジア防災センターは、下記の7カ国への調査に参加しました。

5月19日～5月21日	スリランカ
6月10日～6月12日	ミャンマー
6月13日～6月15日	パキスタン
8月17日～8月21日	タイ
8月21日～8月24日	バングラデシュ
8月24日～8月27日	マレーシア
9月29日～9月2日	インドネシア

調査報告書は UNESCO/IOC のホームページをご参照ください。報告書は、当該国の組織、施設、人材などを評価し、津波早期警戒システム構築のための必要事項等をまとめています。